

平成30年度第10回登別市教育委員会会議録

日 時 平成31年1月24日（木）午後4時30分

場 所 ホテル平安

## 第10回 教育委員会議事日程

1 日 時 平成31年1月24日(木) 午後4時30分

2 場 所 ホテル平安

3 議 案

議案第14号 平成31年度登別市教育行政執行方針について

議案第15号 平成31年度学校給食費の改定について

4 情報提供

(1) 平成31年度登別明日中等教育学校の合格状況について

(2) 冬季休業期間中の学校図書室開放利用状況について

(3) 登別市英検チャレンジ事業について

(4) 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

(5) 平成30年度卒業式出席者の調整について

(6) 管内教育委員会委員研修会について

5 出席者

(教育委員会5名)

教育長 武 田 博

委 員 垣 内 登紀子

委 員 森 口 達

委 員 赤 井 秀 輝

委 員 堅 田 裕

(事務局9名)

教育部長 佐藤史彦 教育部参与 野崎 均

教育部次長 橋場 太 総務グループ建築主幹 出口 利美

学校教育グループ総括主幹 舘下貴子 学務主幹 小野島 晶

社会教育グループ総括主幹 安部直也 学校給食センター長 吉田富士夫

図書館長 綿貫 亨

○武田教育長　それでは、本日の委員会は、5名が出席されておりますので、有効に成立していることをご報告します。これより、平成30年度第10回教育委員会を開催します。本日の議事は、議案2件になります。それでは、早速議事に入ります。議案第14号「平成31年度登別市教育行政執行方針について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○野崎教育部参与　はい。平成31年度の教育行政執行方針について説明いたします。はじめに「これまでの経緯と今後の予定」であります。12月の第9回定例教育委員会において、執行方針の骨子となる重点施策を過年度と比較検討できるように示した構造図により情報提供させていただきましたが、本日は原案を作成しましたので、その説明を行います。まず、これからの日程であります。表現・字句の修正等を重ね2月中旬に予定されている平成31年第1回市議会定例会に提案いたします。本日は、原案の段階であります。平成31年度教育行政執行方針の承認をいただきたいと思います。

それでは、原案の概要を説明いたします。1ページをお開きください。現状認識は、国の「第3期教育振興基本計画」の策定を受けて、本年3月策定予定の「登別市教育振興基本計画」に沿って進めていくことを記述しております。

2ページをご覧ください。重点項目ですが昨年度から引き続き「地域とともにある学校づくり」を基軸に進めますので、一番初めに位置付けているところです。方策としてコーディネート機能の拡充という言葉を入れております。

次に学校教育ですが、まずは「幼保・小・中連携」を最初に位置付け、小学校からのスタートカリキュラム作成を記載しております。「学力の向上」ではプログラミング教育の取組支援を、また、「英語教育」では4年生での英検ジュニアの実施や中学校で3級検定料半額補助の取組を記載しております。「教職員の指導力の向上」、「学校図書館」、「豊かな心の育成」は掲載の通りですので、ご覧いただければと思います。7ページ、体力に関わる表記ですが、「体力の向上」という形で12月は示しておりましたが、健康教育に関わる取組を盛り込み「健康や体力づくり」という表し方にしております。「児童・生徒の安全対策」では通学路や避難訓練、情報モラルや消費者教育に関わる取組を記載するとともに、今年7月に鷺別小学校で行う市の総合防災訓練や道指定の一日防災学校の実施を記載しています。「不登校・いじめ対策」、「特別支援教育」、「学校の適正配置」は記載のとおりです。

9ページからは「社会教育」についてになります。人生100年時代を迎えようとしている中、今まで以上に生涯学習社会の実現に向け計画に沿って進めていくことを記載しております。「ふるさと教育」、「家庭教育」、「青少年の健全育成」などは記載のとおりです。12ページ「文化・スポーツの振興」では、今回もオリンピックを招いての講演会等を企画していることを記載しております。現段階では水泳の関係で進めております。

13ページ「学校給食」では給食費の改定について触れております。「図書館」では市民の参加を促す取組を記載しております。

あとがきでは、総合教育会議を通して市長と連携を深めながら推進する旨を記載しております。基本的な重点内容は固まりつつありますが、原案の段階でありますので、本日は、委員の皆様のご意見をいただき、平成31年度の教育行政にふさわしい内容にしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

**○武田教育長** ただ今議案第14号について説明がありました、内容を含めてご質疑ございませんでしょうか。予算の編成権が市長にありますので、市長と調整するものがあると思います。最終決定ではありません。。基本的な考え方を示させていただきました。この辺はというところがあれば。

(「ありません」の声あり)

**○武田教育長** それでは、議案第14号については、承認することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**○武田教育長** それでは、議案第14号については承認します。次に、議案第15号「平成31年度学校給食費の改定について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

**○吉田学校給食センター長** 議案第15号平成31年度学校給食費の改定について説明いたします。これにつきましては学校給食費を次のとおり改定したいので登別市学校給食費収納条例第3条に基づき教育委員会の決定を求めるものであります。改定理由は、現行の給食費は毎年食材価格の上昇が続く中、安価な食材の選定、献立の工夫によって、平成26年度の改定から4年間据え置いています。現行のままでは子どもに必要な栄養を満たす望ましい安定した給食の提供が難しくなるため、次のとおり改定しようとするものです。なお、本件につきましては、平成30年12月20日に登別市学校給食センター運営委員会に諮問しまして、平成31年1月11日同委員会から改定内容は適当であるとの答申を受けております。改定内容ですけれども、まず保育所につきましては1食あたり現行119

円が改定後129円、改定額は10円、改定率は8.4%となっております。小学生は現行270円が292円、改定額22円、改定率8.15%の増額。月額・年額については記載のとおりでございます。中学生は、現行322円が改定後352円、改定額30円、改定率9.32%となっております。施行年月日につきましては平成31年4月1日となっております。3ページの改定内容ですが、まず1番の前回改定からの1食あたり単価の推移でございますが小学生では、前回改定いたしました平成26年度の1食あたりの単価は、主食が62円31銭、主食にはパン、米飯、麺類、包装加工料がありますけども、こういったものを全部トータルで平均しますと62円31銭となります。次に牛乳ですけども、39円40銭、その次に温食と副食ですが、148円34銭となっています。これらを全部足すと250円5銭となしまして、これに消費税等を加えますと270円になります。その後26年度から27年、28年、29年度と横に見ていただきますと、これまで毎年主食と牛乳の単価は値上がりし、平成30年度につきましては主食のところを横に見ていくと67円48銭、その下の牛乳は42円39銭となり、26年度と比較すると主食は5円17銭、8.3%、牛乳は2円99銭、7.59%の上昇となりました。この主食と牛乳が値上がりする中で、給食費の270円はずっと据え置いておりますので、温食と副食の単価は毎年減少することとなり、平成26年度148円34銭だったものが30年度は140円18銭と26年度に比べて8円16銭の減少、減少率については5.5%となりました。この5.5%の減少につきましては、食材を生鮮野菜を価格の安い冷凍食品に変更したり、挽き肉を大豆へ変更するなどの工夫によりまして栄養摂取基準は維持しながらも単価は抑制してきたところですが、中学生につきましても同様となっております。次に2番、温食と副食の食材価格の変動指数のところですが、これは前回改定した平成26年度を100として種類ごとに価格の変動を表したものです。一時期下がりましたがこれも平成30年度につきましては127.9というふうに上がっております。このように全ての食材が上昇し一番下の30年度9月末の平均額ですけども115.65となりました。これにつきましては、15.65%価格が上昇したということを表しております。中でも特に下から3番目の地場産品、鮭とか昆布等になりますけども、この地場産品の上昇率は中でも一番高くなっております。いま説明した小学校の単価の一番上の表に戻ってみてください。その小学生のところの温食と副食の欄で平成26年度48.34となっておりますけども、その下に価格上昇を加えた場合、平成30年度であれば171円56銭になりまして26年度と比較すると23円22銭上昇することになります。実際にはマイ

ナス 8 円 1 6 銭少なくなっている分ですから、2 3 円 2 2 銭との差 3 1 円 3 8 銭が食材の選定、献立の工夫によって値上がり分を吸収してきたということになります。

次のページですけれども、このところも小学生の欄で説明させていただきます。A 欄で平成 2 6 年度の単価に価格上昇率を乗じて算出した給食費のところ、この A については平成 2 6 年度の単価に平成 3 0 年度の価格上昇分を乗じた単価です。温食と副食の欄を見ますと、ただ今説明しました 1 5 . 6 5 % の上昇分を乗じたものとなっております。次にそのとなりの二重の四角で覆っている B の欄ですけれども、A の副食と温食の価格に単価抑制率 5 . 5 % を乗じて算出した給食費となっております。その B については主食と牛乳は A と同様の額、同様の考え方で算出しております。温食と副食については A の価格上昇分 1 5 . 6 5 % を乗じたものにこれまでもそうですし今後も価格の安い食材の選定や献立の工夫の努力を続けていくということで単価の減少率を単価の抑制率という考えで 5 . 5 % を乗じたものです。この度の改定は、この B として改定幅を抑え、保護者の負担を極力軽くしたいという考え方です。ですからこの B を使うということです。そして、その下段の中学生につきましても同様の考え方です。

次のページにつきましては、学校給食センター運営委員会からの答申の写しです。運営委員会では、活発な議論がなされ、主な意見や質疑としましては価格上昇が続く中で量を変えずにどのように単価を下げたのか。また、負担が高くても品質の高い安全な食材を使うことによって保護者の理解は得られるのではないか。これは単純に単価の上昇率を使うべきでないかという意見もありました。また、保護者の負担は大変だと思うので、価格を抑えた方が良くと思うが、食材の質を下げないようにしてほしい。学校では給食費の他に教材などの保護者負担があり、値上げ幅は少ない方が理解は得られる。あと、食材価格は上昇傾向にあるから 2、3 年で次の改定が必要になるのではないかなどの意見がありました。これに対してまして単価を抑えたということにつきましては、ただ今説明しましたとおり生鮮野菜から価格の安い冷凍野菜にするですとか、挽き肉から大豆に変更するですとか、栄養摂取基準を満たした安い食材を利用した献立を使うですとか、そういったことによって単価を抑制してきたということで説明をしました。また、食材の品質につきましては、主に国産を使用しています。外国産の食材については信頼できる製造者、販売業者から購入しており国産、外国産いずれも品質に不安のあるものは使用していない。また、改定幅につきましては、これからも食材の選定、献立の工夫等の努力を継続し少しでも保護

者の負担を減らしていくことを考えている。食材費については毎年度精査しており、その中で改定が必要かどうか検討していくというふうに対応したところです。委員会では特に反対の意見はなく全会一致で改定内容は適当であると認めていただいたところです。今後につきましては、議会での予算審議と並行しながら、保護者へお知らせ分を配布したいと考えているところです。以上で説明を終わります。

○**武田教育長**　ただ今議案第15号について説明がありました。ご質疑ございませんでしょうか。

（「ありません」の声あり）

○**武田教育長**　それでは、議案第15号については、承認することとしてよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○**武田教育長**　それでは、議案第15号については承認します。以上で本日の議事は全て終了しましたが、その他、事務局から情報提供などありましたらお願いいたします。

#### 【情報提供案件】

○**小野島学校教育グループ学務主幹**　はい。平成31年度北海道登別明日中等教育学校の合格状況についてまとめましたので情報提供いたします。別冊資料の1ページをご覧ください。今年度本市では47名が受験し、昨日時点で33名が合格となっております。この中には他の学校を併願している児童もおりますので、入学者が減る可能性があります。因みに入学予定者には今週月曜日までに決定通知書が交付され、連絡を受けたものは本日までに入学的意思を中等教育学校へ伝えることとなっております。また、入学辞退者が出た場合は合格者の追加が行われまして、既に本市でも1名の追加合格がありました。追加は来月28日（木）までを予定しておりますので、今後の状況によっては合格者が多少増えるかもしれません。以上です。

○**館下学校教育グループ総括主幹**　はい。続きまして冬季休業期間中の学校図書室開放利用状況について情報提供いたします。資料は2ページになります。休業期間中の図書室の開放につきましては、昨年度より本格実施しておりますが、平成30年度冬期休業期間中の利用状況をまとめましたのでご報告いたします。各学校において1日から3日間の開校日を設定いたしました。また、開校日に併せてALTを派遣し全ての小学校で英語や絵本の読み聞かせなどのイベントを実施しております。昨年度の同期と比べますと利用人数や

貸出冊数はほぼ同じ状況となりました。また、ALTのイベントには昨年度の冬季や今年度の夏季休業期間よりも多くの児童の参加がありました。来年度もこれまでの実績を参考にしながら進めて参りたいと考えています。

続きまして、3ページの登別市英検チャレンジ事業につきまして情報提供いたします。新学習指導要領により平成32年度から小学校の中学年の外国語活動が本格的に始まり、高学年におきましては外国語が教科となりますが、本市では中学年3・4年生の外国語活動につきましては移行期間の本年度から35単位時間を確保し、高学年の教科化につなげる取組を行っております。中学年が英語に対する意欲を保ちながら高学年からの外国語科へとつなげることを目的に、外国語活動の取組の成果を客観的に図るため、31年度より市費負担で小学校4年生全員を対象に英検ジュニア学校版ブロンズテストを導入することといたしました。また、中学校では中学校卒業時まで英検3級の合格を目標に平成31年度より英検3級を受験する市立中学校生徒に対し検定料の半額を補助することといたしました。小学校の中学年から英検に触れ、中学校卒業時まで英検3級の合格を目指すという一連の取組により、登別市の外国語教育のさらなる充実を図って参ります。小学校における英検ジュニアの内容と中学校における英検3級受験に対する半額補助については、資料のとおりとなっております。なお、本事業については、市長部局との協議の結果、まずは31年度から33年度までの3か年事業として採択されましたが、実績等により見直しを行って参りたいと考えております。以上でございます。

**○小野島学務主幹** はい。平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について本市の状況をまとめましたので情報提供いたします。資料は5ページからになります。本市で調査を受けた児童・生徒は、小学5年生382人と中学2年生320人の合計702人です。この学年以外でも体力調査を実施している学校がほとんどですが、全国集計されるのは小学校5年生と中学2年生のみとなっております。実施時期は6月から7月にかけて主に各学校の体育の時間に取り組んでおります。調査結果は全国全道の状況と本市のこれまでの経年比較できるように6ページ、7ページの表では、悉皆調査が行われた平成26年から30年度の結果を記載し、下のグラフでは3年間の本市の状況を全国平均を50とするT得点との比較でまとめております。調査結果の概要ですが、6ページの小学校の体力総合点でございますが、表でいうと右側の体力合計点となりますが、全国平均を50とすると男子で52.4、女子で52.9となっております。今年度も男女とも全国平均を上回っております。また、7ページの中学校の総合点になりますけども、男子では4

9. 7、女子は47.4となっておりまして、女子で全国と2ポイント程度差が見られますが、ここ数年では高得点となっておりましてほぼ全国水準程度となっております。次に体格ですが、それぞれ身長・体重という項目があるかと思いますが、それを見ていただくと特に体重が継続して50点を超えている状況になっておりますので、全国平均をやや超えておりまして登別市の児童・生徒はやや肥満傾向にあることが分かります。原因としては全国学力・学習状況調査の結果からも本市の児童生徒はゲームやテレビの視聴等の時間が長いということ。それから質問紙調査にあります中学校での運動系部活動の所属が男子で7割程度、女子で5割程度となっておりまして、運動をするしないの二極化が見られることなど、学年が上がるにつれて体を動かす機会、時間が減少しているためと考えられます。年齢相応の体力という点でも十分身につけているとは言いきれない状況です。また、小学校については運動の能力は継続して全国平均を超えておりまして、その要因としては継続して行っております1校1実践の体力向上の取組、それから各学校における体育科の授業改善が進んでいること、おにスポからのスポーツ指導員派遣による休み時間等の運動機会の増加といった環境の質的改善が進んだことなどが考えられます。種目別では特に握力、長座体前屈、立ち幅跳びで伸びが見られております。反面中学校を含む50m走、つまり走力では課題が見られておりますことから、運動の基本要素である走について学校だけではなく家庭や地域と連携した取組の機会の設定も進める必要があると考えております。以上概要につきましては、8ページにまとめておりますので後ほどご覧ください。本市の調査結果は今月の校長会等で情報提供しておりまして、各校の指導や体力向上策の充実につなげていることはもとより、今後特に小中学校間での交流機会では是非話題にさせていただくように伝えております。以上です。

**○橋場教育部次長** はい。卒業式の出席者の調整ということで9ページになります。今年度の卒業式の日程が決まりました。参考に29年度の出席者を掲載していますけども、このような日程になっております。次回のときに出席の方を確認したいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

それから10ページと11ページになります。教育委員会委員研修会になります。2月14日から15日ということで今のところ赤井委員と垣内委員が宿泊、教育長と森口委員が日帰りということで確認しております。出席の交通の関係はまたあとで確認させていただきますのでよろしくをお願いします。

○武田教育長　それでは一括で説明ございましたけども、ご意見ご質疑あれば受けたいと思います。何かございませんか。

○赤井委員　英検で初めて聞く言葉があるので、もう少し詳しく、一つは小学校4年生のブロンズテストでどうして4年生なのかということが一つと。ブロンズ、シルバー、ゴールドは何ですかというのと。それから中学校の英検の方にどういうふうにつながって英検は何級とかいいいますが、そのあたりの関連性を教えていただきたいと思います。

○館下総括主幹　英検ジュニアですが、元々あった児童英検というものから変更になったものでありまして、英検ジュニアとして制度化されているのですが、英検ジュニアにつきましては金銀銅に相当するゴールド、シルバー、ブロンズというような3つのグレードがあるのですが、ブロンズ版というのが小学校英語学習を1年半から2年程度行っている方が対象というところで、3年生から35単位時間をやっていますので、1年半以上を経過した4年生でこのブロンズを受けるのが相当ではないかというところで、今年導入しようと思っています。英検ジュニアですがこれは一般的に誰でも受けられるものと、学校版というものがございまして、今回取り入れるのは学校版というところで、学校版を受けますと学校単位での状況ですとか全国と比べてどうであるとか、そういった統計的なものも提供してもらえると。そういったところで学校版を導入しようということにしています。英検ジュニアですが、まずCDで聞いてもらって聞いた内容がどういったことをいっているのかというものを、問題用紙がフルカラーで絵の付いたものが出てきますので、その絵のどこが合っているかを問うことで丸をしていくような形の受けやすいものです。子どものリスニングテストなので何か文字を書いたりといったことは一切無く、ただ言っていることが聞き取れているかどうかというものを計るものです。子どもたちにはどれだけ聞いてますよというような証明書も発行されるということで、合否ではなくてどこまで聞いているか、どこまで分かっているかということを証明書として発行されるといったところです。英検の方は同じ英語技能検定協会の方で作成しているのですが、これは5級から始まりまして中学校1年生で5級程度、中学校2年生で4級、中学校3年生で3級程度といわれていますが、今回3級を導入した経緯ですけれども文科省の方でも中学校卒業時までに3級程度を目標にするというようなことがございまして、その3級を持っている、或いは3級程度の状況にあるという生徒を50%くらいを目標にしようといったところでこのプランが設定されていますので、それに向けて市としても中学校3年生までに3級合格を目指してもらおうということで3級だけの補助となっています。本来ですと、4級5級を受

ける生徒であっても補助をするべきかなと思いますが、これは財政状況等にもよりますので、取り敢えず3級を目指して欲しいといったところで3級の補助というようなことを考えました。こういった取組によって小学校3年生から35単位時間が確保されていますので2年目になった4年生に受けてもらってまずそこが入口です。そのあとのずっと外国語科という教科を進めていただいて、最終的には中学校を卒業するまでに3級を目指してもらおうというような、入口と出口にアプローチすることによって意欲を持ってもらえるのではないかとといった取組ということで考えております。

○赤井委員 学校でテストを受けるんですか。

○館下総括主幹 学校でテストを受けることを考えております。4年生一斉に授業時間を1時間確保してもらった上で30分のテストですけれども受けてもらおうと考えています。中学校に関しては希望者、受ける方について半額を補助することで考えています。

○赤井委員 はい。分かりました。

○武田教育長 他にご意見ございませんか。

○堅田委員 はい。体力・運動能力ですけれども、登別市で部活以外の少年団の数も種類も限られているの思うのですが、例えば、札幌なんかと比べると運動の能力、勿論母数も多いので、簡単に比較はできないと思うのですけれども、もう少し選択肢の多い都市との比較はできるのですか。

○武田教育長 北海道が分析をして出しているものがあります。それに基づいて都市別の状況とかがはっきり出るので、そういう資料提供できるそういうことになっています。

○小野島学務主幹 はい。市町村別の結果というのは全国や全道と比べたものはあるので登別市内の子どもたちの体力の状況となると他市町村との比較では見ることは出来ると思います。一応北海道の方で同意が得られた市町村についてはそういう形でまとまって出てきますので、傾向は見ることはできると思います。

○武田教育長 よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○武田教育長 他になければこれで終了したいと思います。最後に2月の教育委員会の開催日について予定したいと思います。次回の開催日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

○橋場次長 2月の教育委員会につきましては、2月28日(木)、会議は16時30分から開催したいと考えております。会場は市民会館を予定しております。

○**武田教育長** それでは、事務局より提案のありました2月28日（木）で皆様のご都合は如何でしょうか。

（「大丈夫です」との声あり）

○**武田教育長** では、決定とさせていただきます。詳細につきましては、後日事務局よりお知らせ願います。以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。